

氏名	カ トウ カズ オ 加藤和雄
学位の種類	博士（工学）
学位記番号	博第824号
学位授与の日付	平成24年3月23日
学位授与の条件	学位規則第4条第1項該当 課程博士
学位論文題目	インテリア・シェルターの離隔性の分析に基づく倉俣史朗のインテリアデザインにおける空間構成
論文審査委員	主査 教授 堀越哲美 教授 河田克博 教授 水谷章夫

論文内容の要旨

倉俣史朗（1943~1991）は、日本を代表するインテリアデザイナーとして、商業室内空間、家具、照明などを手がけ、既成概念を否定した本質追求の態度、浮遊感がともなう空間性の作品群は、デザイナー、アーティスト両面にて日本、海外で高く評価され、毎日産業デザイン賞、日本文化デザイン賞、フランス文化省芸術勲章などを受章している。

倉俣史朗のインテリアデザインは斬新であり、多くのデザイナーに多大な影響を与えてきた。倉俣のデザインについて主観的、感覚的な評論、対談、エッセイは多く見られるが、研究方法を明確にしたデザインの空間構成、創造手法についての研究は極めて少ない。そこで、本研究は倉俣史朗のインテリアデザインに対して、インテリア・シェルターの離隔性による空間分析方法を用い、空間創造に関する手法の一端を明らかにしようとするものである。具体的には42作品の商業室内空間の作品を対象として、平面図と断面図を基に、与えられたすでに存在する空間あるいはインテリアを構成する元の構造体である原室内空間とその原室内空間に新たに構成された床、壁、天井であるインテリア・シェルターとの位置関係と形状を比較し分析を行い、インテリア・シェルターの面の離れの理由である離隔要因、面の空間的離れ方である空間的離隔性、面の中に現れるフォルム、パターン、マテリアル、カラーおよび照明の特徴を抽出し、KJ法を用い13の空間的特徴のグループに分類された結果との関係で、空間の特徴およ

び空間創造手法を明らかにすることを目的としている。

本論文は以下の5章により構成されている。

第1章「序論」においては、本研究の背景、目的、既往の研究、本研究の位置づけについて述べている。

第2章「研究計画」においては、本研究を進めるにあたり研究方法を述べている。倉俣史朗の研究対象作品として、インテリアデザインの商業空間42作品を選定した。原室内空間に対して、新たに構成された床、壁、天井であるインテリア・シェルター面の離れた離隔寸法 d を読み取り、インテリア・シェルター面の離れ理由である離隔要因 D 、離れ面の多層性である多重性 D_m を求めた。また、その面の空間的離隔性である面の離れ方 D 、面のフォルム F 、面のパターン P を求め、次に面のカラー C 、面のマテリアル M および面の照明 C を求め、これをインテリア・シェルターの離隔性による空間分析方法と位置付け、それらの抽出方法について述べている。

第3章「分析結果」においては、第2章で述べた分析方法をもとに、インテリア・シェルターの離隔要因、多重性、空間の特徴等について抽出し、データ・シート1を作成した。これを基にして、空間的離隔性、面のフォルム、面のパターンについてデータ・シート2としてまとめ、および面のカラー、面のマテリアル、面の照明について、同様に抽出項目を整理して、データ・シート3としてまとめた。これを基に、インテリア・シェルターの床、壁、天井における各種の離隔性の要素について、これらの現れ頻度分布を求めデータ化した。

第4章「考察」においては、3章で作成した、3種のデータ・シートおよび各種の離隔性の要素の頻度分布から、時代順に及び、空間的特徴グループ毎に整理した一覧表を基に考察を行い、インテリア・シェルターの離隔性（離隔要因、多重性、空間的離隔性、離隔面のフォルム、パターン、カラー、マテリアル、照明）の観点から空間構成の生成過程の操作を明らかにしている。ここでは1976年以前の作品では、直線的空間構成が多く、1977年以後の作品では、曲線、曲面の形態が出現し、多重性も増加した。これらには空間的、用途的、精神的離隔要因が複合され、多様な空間的離隔性（斜め離隔、曲面離隔など）、透過性のマテリアル等の融合があり、室内空間の周囲部に従表的表現、中央部に主体的表現が多くなり、中央の空間での構造的操作（キャンティレバー、吊り構造）、光の操作によって、より浮遊性が協調され、浮遊感が創出されたことを明らかにしている。

第5章「結論」においては、第2章から4章までに得られた分析と考察により得られた知見を総括して結論としている。さらに今後の研究に対する課題と将来の展望について述べている。

論文審査結果の要旨

倉俣史朗(1943~1991)は、日本を代表するインテリアデザイナーとして、商業室内空間、家具、照明などを手がけ、既成概念を否定した本質追求の態度、浮遊感がともなう空間性を創造したとされる作品群は、海外で高く評価され、著名な賞を受章している。その倉俣史朗のインテリアデザインは斬新であり、多くのデザイナーに多大な影響を与え続け、倉俣のデザインについて主観的、感覚的な評論、エッセイ書かれてきたが、デザインの空間構成、創造手法についての研究は極めて少ない。そこで、本論文は倉俣史朗のインテリアデザインに対して、インテリア・シェルターの離隔性による空間分析方法を用い、空間創造に関する手法を明らかにすることを目的として行われたものである。具体的には42作品の商業室内空間の作品を対象として、平面図と断面図を基に、与えられたすでに存在する空間あるいはインテリアを構成する元の構造体である原室内空間とその原室内空間に新たに構成された床、壁、天井であるインテリア・シェルターとの位置関係と形状を比較し分析を行い、インテリア・シェルターの面の離れの理由である離隔要因、面の空間的離れ方である空間的離隔性、面の中に現れるフォルム、パターン、マテリアル、カラーおよび照明の特徴を抽出し、空間的特徴のグループとの関係で、空間の特徴および空間創造手法を解き明かしている。

本論文は以下の6章により構成されている。

第1章「序論」においては、本研究の背景、目的、先行研究を概説し本研究の位置づけについて述べている。

第2章「研究計画」においては、本研究を進めるにあたり研究方法を述べている。倉俣史朗のインテリアデザインによる商業空間42作品を研究対象作品として選定したことを述べ分析方法を示している。原室内空間に対して、新たに構成された床、壁、天井であるインテリア・シェルター面の離された離隔寸法を読み取り、インテリア・シェルター面の離れ理由である離隔要因、離れ面の多層性である多重性を求めている。その面の空間的離隔性である面の離れ方、面のフォルム、面のパターン、面のカラー、マテリアルおよび照明を抽出し、インテリア・シェルターの離隔性による空間分析方法と位置付けている。

第3章「分析結果」においては、第2章の分析方法を基に、インテリア・シェルターの離隔要因、多重性、空間的特徴等について抽出項目を整理し、空間的離隔性、面のフォルム、面のパターン、および面のカラー、面のマテリアル、面の照明について、抽出項目を整理して、データ・シートとしてまとめ分析の基礎データとしている。これを基に、インテリア・シェルターの各種の離隔性の要素についてこれらの現れ頻度分布を求めデータ化した。

第4章「考察」においては、第3章で作成した、データ・シートおよび各種の離隔性の要素の頻度分布から、時代順に及び、空間的特徴グループ毎に整理した一覧表を基に考察を行い、インテリア・シェルターの離隔性(離隔要因、多重性、空間的離隔性、離隔面のフォルム、パターン、カラー、マテリアル、照明)の観点から空間構成の生成過程の操作を明らかにしている。1976年以前の作品では、直線的空間構成が多く、1977年以後の作品では、曲線、曲面の形態が出現し、多重性も増加したことを示している。これらには空間的、用途的、精神的離隔要因が複合され、多様な空間的離隔性(斜め離隔、曲面離隔など)、透過性のマテリアル等の融合があり、室内空間の周囲部に従表的表現、中央部に主体的表現が多くなり、中央の空間での構造的操作(キャンティレバー、吊り構造)、光の操作によって、より浮遊性が協調され、浮遊感が創出されたことを明らかにしている。

第5章「結論」においては、各章の分析と考察により得られた知見を総括して結論としている。さらに今後の研究に対する課題と将来の展望について述べている。

以上のように、本論文は倉俣史朗のインテリアデザインをインテリア・シェルターの離隔性による空間分析方法を用い、空間創造に関する手法をまとめたものであり、工学的および建築・デザイン学的に価値あるものと考えられ、博士(工学)の学位にふさわしいものと認める。